

平成28年度 指導方法等の改善計画について (国語)

廿日市市立津田小学校

昨年度の課題と具体的に取組んだ事項

【昨年度の課題】

- 複数の資料から必要な情報を取り出し、段落相互の関係性に注意して文章を構成する力が不十分であった。
- 編集の仕方や記事の書き方に注意して資料を読み、その表現の工夫を捉える力が不十分であった。

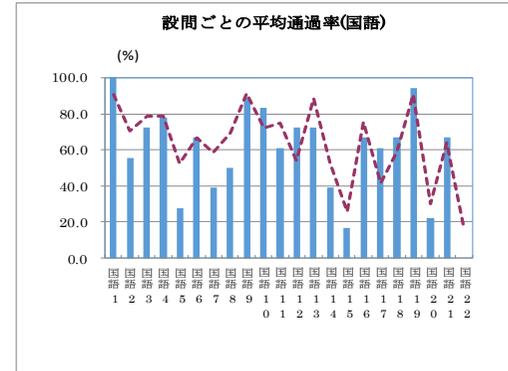
【取組んだ事項】

- 日常生活に必要とされるさまざまな種類の文章を取り上げて、その内容を的確に押さえて、それぞれの文章の特徴を理解させた。
- 「接続詞」「段落分け」「一文にまとめる」などの活動の入った視写を行い、書く力をつけた。

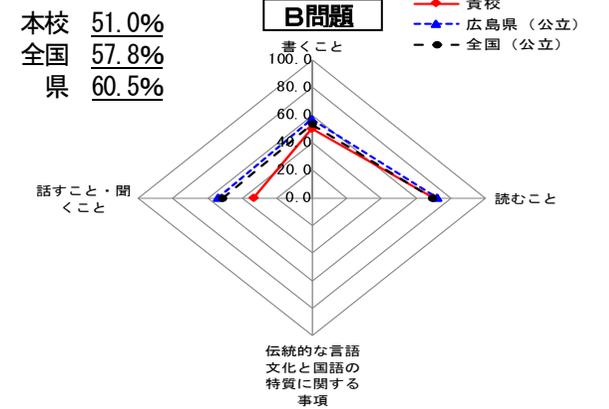
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	59.1%	63.7%	29.6%
県	63.7%	68.0%	36.7%

	A問題	B問題
本校	69.8%	51.0%
全国	72.9%	57.8%
県	78.4%	60.5%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ 複数の資料から必要な情報を取り出し、それらを関連付けて論理的に説明する力が不十分である。(五1通過率22.2%)
- ◎段落相互の関係や中心となる語や文に注意しながら読み取る力が不十分である。(三6通過率38.9% 三7通過率16.7%)
- ◇目的に応じて質問したり、意図を捉えながら聞いたりする力が不十分である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

- ◎ 複数の資料を読み取り、必要なキーワードを見つけ関連付けて説明する授業を意識して行う。各単元の学習のまとめとして、内容に関連した適用題を取り入れ、活用力の向上を図る。
- ◎ 帯タイムや家庭学習を使い、さまざまな種類の文章に触れさせ、段落相互の関係や中心となる語や文に着目しながら問題を解いていく経験を増やす。
- ◇ 「話す・聞く」の学習で、伝える内容を整理して話したり、必要なことをメモして聞いたりする経験を増やす。

来年度の目標値

- 「情報」情報の取り出し・情報を関係付けた記述の平均通過率を本年度平均通過率より5%以上向上する。
- 「読むこと」領域の平均通過率を本年度平均通過率より5%以上向上する。

中間検証①(H28.12)

中間検証②(H29.2~3)

最終検証(H29.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
複数の資料を読み取り、必要なキーワードを見つけ関連付けて説明する授業を意識して行う。	全校	自作の検証問題の平均通過率	50%	40%	通過率の低い問題をもとに作成した検証問題の結果は目標値に及ばなかった。今後、複数の資料を読み取る活動で、自分の考えをまとめる時間を確保し、発表する場を設定し、定着を図る。	自作の検証問題の平均通過率	65%	60%	自分の言葉で説明をすることが苦手な児童がいるので、個別指導を充実させ、引き続き、読み取った内容を自分の言葉で表現する活動を積極的に取り組む。	「情報」情報の取り出し・情報を関係付けた記述の平均通過率	本年度平均通過率より5%以上向上	+14.2%
帯タイムや家庭学習を使い、さまざまな種類の文章に触れさせ、段落相互の関係や中心となる語や文に着目しながら問題を解いていく経験を増やす。	全校	単元末テストの「読むこと」平均通過率	80%	89%	単元末テストでは、目標値を超える結果が見られた。自作問題でも対応できる力をつけるため、段落相互の関係を接続語などに着目していく授業に継続して取り組んでいく。	「読むこと」の自作の検証問題の平均通過率	70%	88%	読み取った内容を文章にまとめる学習を積極的に取り入れた授業改善を行った結果、目標値を超えることができた。今後も継続して取り組む。	「読むこと」領域の平均通過率	本年度平均通過率より5%以上向上	+6.3%

平成28年度 指導方法等の改善計画について〔算数〕

廿日市市立津田小学校

昨年度の課題と具体的に取組んだ事項

【昨年度の課題】

- 問題を解決する方法や自分の考えを筋道立てて説明する力が不十分であった。
- 比較量と割合から、基準量を求める力が不足していた。

【取組んだ事項】

□図・式・言葉を使って、自分の考えを説明し、ペアやグループで話し合い、自分の考えを持ったり、友達の意見と比べたりする活動を授業の中に取り入れた。

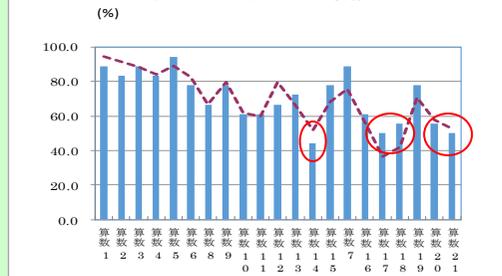
□情報を正確に読み取り、具体的なイメージを持って比較量と割合から基準量を求める力を身につけさせ、日常生活の中でも、既習事項を意識して活用させた。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	70.6%	74.7%	57.8%
県	69.4%	74.9%	52.0%

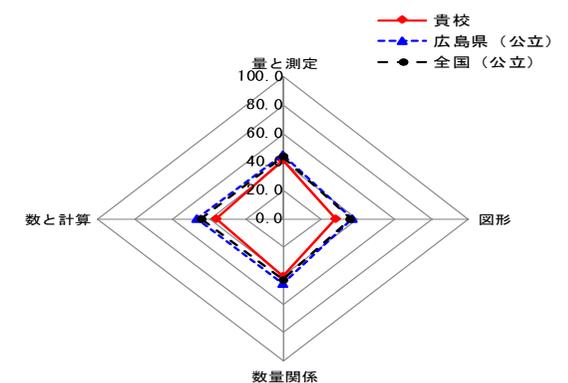
全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A問題	B問題
本校	79.5%	42.1%
全国	77.6%	47.2%
県	79.7%	49.5%

「基礎・基本」定着状況調査結果から

設問ごとの平均通過率(算数)



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

◎◇ 問題を解決する方法や情報を整理し、読み取ったり、自分の考えを筋道立てて説明したりする力が、不十分である。

- ◎ (11 (3) 事象の解釈と根拠の説明 50%)
- ◇ (2 (3) 式の意味と説明 通過率0%)

◎図形 (ひし形や平行四辺形) の性質の理解が不十分である。

- (7ひし形の判断 通過率44.4% 11(2)平行四辺形の性質の利用 通過率55.6%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

◎◇ 図・式・言葉を使って自分の考えを説明する活動を授業の中に取り入れる。ペアやグループで話し合い、自分の考えを持ったり、友達の意見と比べたりして正しい解を導き出す活動を仕組む。算数用語 (キーワード) や、モデルの話形を提示し、説明の仕方を定着させる。

◎ さまざまな図形の性質について既習内容を振り返ることができるように、既習内容の掲示をする等環境を整える。

来年度の目標値

○「事象の解釈と根拠の説明」の平均通過率を本年度平均通過率より5%以上向上する。 ○「図形」領域の平均通過率を本年度平均通過率より5%以上向上する。

中間検証①(H28.12)

中間検証②(H29.2~3)

最終検証 (H29.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値
図・式・言葉を使って自分の考えを説明する活動を授業の中に取り入れる。ペアやグループで話し合い、自分の考えを持ったり、友達の意見と比べたりする活動を取り入れる。算数用語 (キーワード) や、モデルの話形を提示し、説明の仕方を定着させる。	全校	自作の検証問題の平均通過率	60%	55%	自分の言葉で説明をしたりグループで交流したりする授業を行ったが目標値に至らなかった。必要な用語や数値を確実に説明に取り入れられるよう指導していく。	自作の検証問題の平均通過率	70%	70%	授業や家庭学習などでの繰り返し練習の成果として、説明の仕方にも多少慣れてきた。話型を定着させて、用語の使い方などに慣れていくよう引き続き指導していく。	「事象の解釈と根拠の説明」の平均通過率	本年度平均通過率より5%以上向上	+27.3%
さまざまな図形の性質について既習内容を振り返ることができる環境を整える。	全校	単元末テストの「図形」平均通過率	80%	78%	適用問題を必ず授業で出来るように進めた結果、高い通過率となったが、目標値には至らなかった。公式など既習事項を活用して問題に取り組むことができるよう、教室に掲示し定着を図っていく。	「図形」の自作の検証問題の平均通過率	70%	80%	既習事項の定着は見られるようになってきた。学力調査でも確実に結果が出せるよう、引き続き指導していく。	「図形」領域の平均通過率	本年度平均通過率より5%以上向上	+18.2%

平成28年度 指導方法等の改善計画について〔理科〕

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 自然の事物・現象や観察・実験に関する基本的な知識が不足していた。
- 観察した事実と関係づけながら情報を考察して分析することができなかった。

【取り組んだ事項】

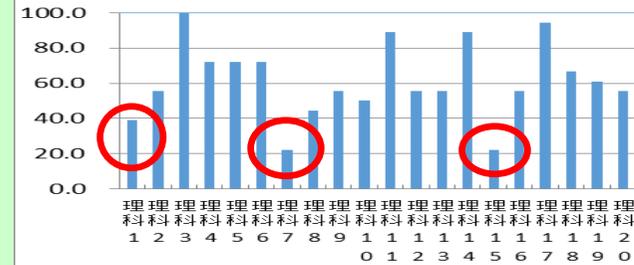
- 用具の正しい使い方や手順を丁寧に指導し、観察実験を行い、基礎的な知識を定着させた。
- 観察や実験のめあてを明確にし、結果や考察をキーワードを使ってまとめる時間を確保した。

	教科全体	タイプI	タイプII
本校	61.4%	67.1%	50.8%
県	60.6%	68.1%	46.7%

本校	%
全国	%
県	%

「基礎・基本」定着状況調査結果から

設問ごとの平均通過率(理科)



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ 物の重さを比較する際に、そろえておかなければならない条件（体積）を理解していない。
(1-1) 物の重さのはかり方 38.9%
- ◎ 太陽の動きを方位を使って表現し、そのときの影のでき方を太陽と関連付けて推測し、説明することができない。
(7-1) 太陽の動きと影の関係 22.2%

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

- ◎ 実験の考察を自分の言葉で端的に表現するなど授業内容を自分のことばでまとめる活動を積極的に取り入れる。また、理科用語を他の理科用語と関連付けて視覚的に理解できるように掲示していく。
- ◎ 論理的に物事を考え、根拠を明確にして的確に答える力を養う必要がある。そのために、理科の実験を行う際に、与えられた条件（変わらない条件と変える条件）を明確にし、結果を予想する際に、その根拠をつけて分かりやすく表現する活動を積極的に取り入れる。その際、小グループを活用し、話し合う場・教え合う場の設定を行うことで授業の工夫改善を進めていく。

来年度の目標値

○タイプ1の平均通過率を本年度平均通過率より5%以上向上する。 ○タイプ2の平均通過率を本年度平均通過率より5%以上向上する。

中間検証①(H28.12)

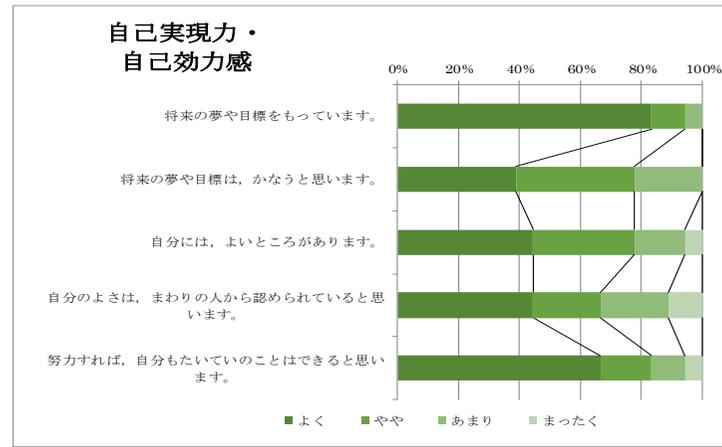
中間検証②(H29.2~3)

最終検証(H29.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
実験の考察を自分の言葉で端的に表現するなど授業内容を自分のことばでまとめる活動を積極的に取り入れる。	3年以上	自作の検証問題の平均通過率	70%	60%	実験後に、考察を自分の言葉で書く指導を繰り返したが、理科の用語で必要な内容を書くことが難しかった。理科用語を関連する図とともに掲示し、既習事項の定着を図り、説明時に活用するよう促す。	自作の検証問題の平均通過率	75%	65%	課題を確認し、考察の話を示したり、用語を確かめたりすることで、書けるようになった児童もいるが、定着は難しかったので、これからも指導していく。	タイプ1の平均通過率	本年度平均通過率より5%以上向上	+4%
理科の実験を行う際に、与えられた条件を明確にし、結果を予想する際に、その根拠をつけて分かりやすく表現する活動を積極的に取り入れ、予想と比較して結果をまとめる活動を行う。	3年以上	自作の検証問題の平均通過率	50%	50%	自分の予想を書くことはできるが、根拠を書くことが難しい児童が多かった。根拠となる既習事項を導入段階で確認し、論理的に物事を考え根拠を明確にして的確に答える活動を積極的に取り入れる。	自作の検証問題の平均通過率	65%	60%	予想を書く時に、根拠をつけて書くことを繰り返し指導した。どの教科でも同じように指導していく。	タイプ2の平均通過率	本年度平均通過率より5%以上向上	+8.2%

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査）

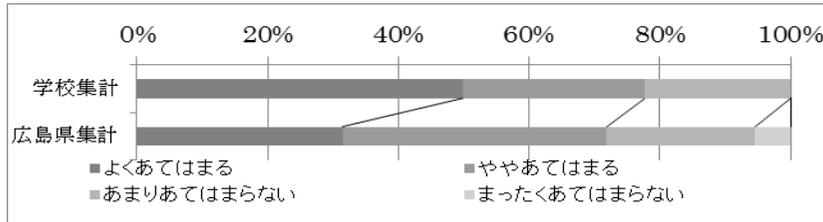
(1) 生活・学習



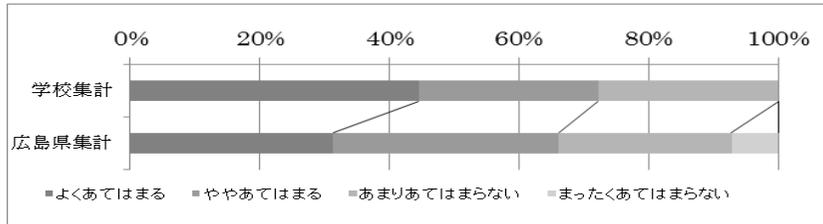
	児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	自分のよさをまわりの人から認められている。 66.7 %	学校全体で日々の帰りの会に「いいとこみつけ」を行い、学級で友だちのよさを発表し、拍手を送る等、温かい雰囲気づくりに努める。	全学年	自分のよさをまわりの人から認められているの割合70%以上にする。	児童アンケート	2月	70% いいことみつけを年間通して行うと共にクラスで全児童へのいいことみつけを行った。	+3.3
全国	友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。 57.1 %	ペア活動やグループ活動を取り入れる等、話し合いの場を設定し、自分の考えや意見に自信をもって発表できるよう努める。また、日々の「いいとこみつけ」を通して、認め合える雰囲気づくりを心がける。	全学年	自分には、よいところがあると思う児童の割合を70%以上にする。	児童アンケート	2月	70% 年間を通していいことみつけを放送で流したり、校内に掲示して、参観日などでその取組を伝えた。	+12.9

(2) 教科

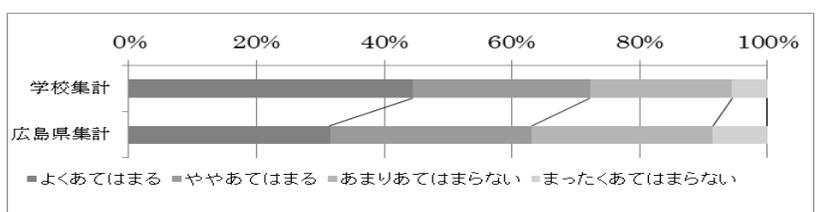
伝えたいことの内容をはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書いている。



解き方や考え方を絵や図などに表して考えている。



自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	伝えたいことの内容をはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書いている。 77.8 %	伝えたいことをメモしたり、組み立てを図で表したりして、文章を書く機会を増やす。	全学年	組み立てを考えて文章を書く割合80%以上にする。	児童アンケート	2月	80% 読み物教材を中心に心情に即した読み取りを理解した。	+2.2
	目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。 81.0 %	自分の意見や考えを、ペアやグループで交流する機会を増やし、友だちのよい話し方を認め合い、学び合う。	全学年	目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする割合85%以上にする。	児童アンケート	2月	85% ペアトーク・グループトークを積極的に授業に取り入れ、お手本となる話し合いの仕方を提示した。	+4.0
算数	解き方や考え方を絵や図などに表して考えている。 77.8 %	題意の読み取りの際、絵や図を使って考え方や解き方を導き出す機会を増やす。	全学年	解き方や考え方を絵や図などに表して考える割合70%以上にする。	児童アンケート	2月	80% 数学的な考え方をねらいとする問題で、図・式・言葉を使って自分の考えが説明できるように指導した。	+2.2
	授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか。 85.7 %	生活に身近な題材で導入・学習することで、教科書の中だけではなく、普段の生活でも活用できることを感じさせる。	全学年	普段の生活の中で活用できないか考える割合を90%以上にする。	児童アンケート	2月	90% 具体的な場面を提示して、意見交流をすることを積極的に行った。	+4.3
理科	自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。 72.2 %	自分の意見や考えを、ペアやグループで交流する機会を増やし、友だちのよい話し方を認め合い、学び合う。	3年以上	自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりする割合80%以上にする。	児童アンケート	2月	75% めあてとふりかえりを必ずノートに書く活動を続けた。結果と考察をノートにまとめた。	+2.8